

我々は何気なく「景観」と言う語を使うがそれは一般の方々にとってちょっと厳めしい言葉になってはいないだろうか？

地域の良さを具体的に探そうとするあまりの専門化、さらにはかくあるべき話になれば聞く側には他人行儀なものにも映ろう。私達に役目があるとすれば無理に引張るエネルギーではなくうまく後押しする力の様な気がする。元々景観づくりには地域の多くの人々の共有認識や、平生からの周辺環境に対する愛情の積み重ねが元気の源であるべきだし山口の景観的特徴でもあるホッとする風景や何となく人に優しい街並の良さはそれらの一体感にある。

人気の邦画「3丁目の夕日」でノスタルジックに浸らなくても懐かしい景色はあちこちにある、それに密度濃い歴史資源の豊富さが加わり、又各地の歴史性の違いから様々な地域の個性にも溢れている。ただそれを史跡的に箱入りにして特別扱いにするのではなく生活感が垣間見え、生きた風景として愛着を持ち普段着で育てていく事が大切でもある。

ちょうど最近関わった景観調査の1項にもあったがまさに五感で感じられる環境整備に加え、現風景として住まう人々も自慢出来る身近さも必要だ。前述の映画が好まれた理由には失ってしまったものが大きかった故もあろうがこの山口には「取り残してきた」魅力が一杯だ。

さらに発掘し、再構築する過程ではそれぞれの職能を活かしてわかり易い具現化に努め、遠い未来の行方を見据えて地域と共に今後も歩みたいものである。